

第2回 校長会議あいさつ

R8.4.22 稲垣

新学期が始まり2週間が過ぎました。子どもたちは皆元気でしょうか。先生方は明るく学級に行っているでしょうか。笑顔の職員室ができていますでしょうか。活力に溢れた学校づくりをお願いします。

教育の目的は、子どもたちが未来を幸せに生き抜けるように力をつけることですが、一方で社会を担う一員として、倫理感や公共の精神を身につけさせなくてはなりません。しかしながら、現代社会を教育環境として見ると、芳しいとは言えない状況です。常任理事国に名を連ねるリーダーが、世界平和を危うくしていますし、SNS内の無責任な投稿は目に余ります。SDGsは地球の未来を拓く旗印ですが、ものの豊かさに囚われがちな世情を見ると、建前と本音の交錯した現実に不安をかき立てられることもあります。私たち大人の背中、子どもたちに何を語れるのでしょうか。

教師は、子どもたちに、人としての道を模索させる立場にありますが、私たちの言葉は説得力を減退させています。しかしそれでも、教育は一期一会の営みです。目の前の子どもにとっては、学校生活の今は一度しかありません。私たちは、これまで以上に心を砕いて子どもたちを思い、誠実さをもって教育の信頼感を維持していかななくてはなりません。

先日行われた教頭会議では、激励と期待を込めて、以下のような主旨を話しました。

1 教頭の基本責務

○全教職員を掌握し、常時校内全体を捉え、先を見通して、円滑な学校運営を司る

どんな課題があり、それは誰に担当してもらうか。⇒ 校内分掌は正常に機能しているか

2 組織づくりは集団の価値観を整えること

○働き方改革は、目標でなく、教育活動を改善していくための手立ての一つ

組織の構造を理解させ、立場で働くことを指導する。権限と責任は表裏一体のもの

3 特に教頭の立場として

① 中堅から頼られること ② 常に守る順番を確かめる ③ 校長への進言と諫言

先週、開催された東海北陸教育長会の研修で、次期学習指導要領について、文科省の教育課程企画室長の講話を聴くことができました。85分があったという間のマシンガントークで、その上内容的にも濃厚極まり、理解と疑問で頭がパンクしそうに疲れましたが、充実した時間でした。その中で、国がこれから特に重視する能力は、本市の掲げる「新たな力を取り込む力と心幹(忍耐力)」に合致していることが確認できました。

新年度にあたり教育委員会では、アントレプレナーシップ教育を推進するために、小学校には上限20万円、中学校には上限100万円の予算を準備しました。アントレプレナーシップという言葉は、耳慣れないでしょうし、具体的な活動もすぐには思い当たらないかもしれません。

一般的に、〇〇教育と称される場合、その本質として重視すべきは、その教育活動を通して、「子どもたちに育てようとする力や心」です。アントレプレナーシップは、一般的に訳されると、「起業家精神」と言われていますが、義務教育の視点から捉えると、「課題を見つける力、課題解決のための計画をつくる力、仲間と協働して課題を解決する力」等を育てることを狙いとしています。

このように考えると、私たちがこれまで取り組んできた授業実践や教育活動とさして変わりはないのです。敢えて特色を言うならば、課題を子ども自らが発見することや意欲的で主体的な探究姿勢が特に重視されていることです。子どもたちが強い願いをもって、アグレッシブに活動することが望まれるわけです。上述の狙いが定まっていれば、活動内容に制約はありません。学校行事や児童会生徒会活動をレベルアップさせても良いし、身の回りやメディアで得られる情報を起点にして、社会的なアプローチをするのも魅力的な取り組みとなります。

子どもたちが中心となって、願いを実現するための計画を考え、予算案を立てて、進めます。中学生では、できる限り活動の全体を委ねていきたいですが、小学生では、教師が課題を提示するなど、リードする場面もあり得ます。大事なのは、狙った能力を培えるかどうかですから、各学校において先生方の知恵を持ち寄って、柔軟に構想していただきたいと思います。